



量子物理学の世界で

稲城市保健センター

☎378-3421

今年も11月をもって国民健

康保険の特定健康診査、後期

高齢者健診は終了しました。

市健診(胸部レントゲンなど)

や社会保険などの特定健診は

毎年、年度末の3月31日まで

続きます。

今回はがん検診について少し話してみようと思います。

稲城市では胃、大腸、乳、子宮、前立腺のがん検診を行っています。大腸がん検診は市

健診の一つですが、時折「大腸がん検診は結構です」と辞退する人がいます。その理由は、と聞くと「がんになった時はなった時」「がんと診断されるのが怖い」などと返ってきます。そんな時「これらの受診者は量子論の世界に住んでいるようだ」と私は思ったりします。

量子論は現代物理学の言わば花形。最新の科学技術はコンピュータにしても携帯電話話にしても、この理論の上に発展しています。宇宙誕生のドラマを解明するにも必要とされていますが、不思議なことに、その根本は「宇宙を構成している粒子は波のように広がっていて、宙ぶらりんの世界にいる」「測定して初め

てその存在がたち現れる」というおよそ科学らしからぬ認識にあります。

検査をするまでは、がんは現れてこない。怖いことに直面しなくて済む、という受診者心理が共通しています。

ミクロな量子の世界と違って、がんは巨視的現実の中で日々成長し、いつか必ず牙をむきます。現代医療のレベルはさほど高くはなく、がん自らが姿を現した時には医者としてはしばし困難な戦いを強いられます。一方、検診で見られる早期のがんの治療は、おおかた赤子の手をひねるように楽勝なのです。その差は同じがんでも同じ病名で括れないほど、とても大きいのです。

稲城市医師会

中島 なかしま 一生美 かずおみ